



Rotary International District 2800

## 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

地区目標

中核的価値観のもと、時流対応の時  
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

クラブテーマ

ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

■奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：東海林 健登 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2945回例会

令和4年6月6日(月)

## 会長あいさつ

東海林 健登 会長



1905年ポールハリスらによって創設されたロータリークラブですが、その当時1906年に採択された定款の綱領(目的)は「相互扶助のためのクラブ」という意味合いが強く

1. 本クラブ会員の事実上利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦

及びその他特に必要と思われる事項の推進

3. シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民として誇りと忠誠心を市民の間に広める

本当の最初の目的は、1. 2 と設定されましたが、3 が後に年内に付け加えられたそうです。

1911年、ポートランド大会でシェルドンが提唱した奉仕の理念が採択され、この頃からロータリークラブは会員の親睦と物質的便益を互いに図り合う社交クラブ的な考えを越えて、職業奉仕・職業倫理の課題を真剣に考え始め、1951年にその最も重大で最後の改定が行われたそうです。この改定によってロータリーの綱領は「有益な事業の基礎として、奉仕の理念を鼓吹しこれを育成する」。このことがただ1つの綱領であると決定され、他に4つ、各項を鼓吹・育成することであるとされたそうです。

ロータリーは、中核に「奉仕の理念」とする思想運動体です。では、奉仕とは何でしょうか。辞典を引くと「利害を離れて国家や社会などのために尽くすこと」とあります。ある先輩ロータリアンにお尋ねしたところ「奉仕とは親睦によって形成される精神的境地の向上や人格の形成を指しており、良質な仲間との交流を深めていく中で、相互啓発を図り修練を重ね自己の心を良質化していくことが「奉仕」なのだ」とおっしゃってました。

つづけて、「そんなロータリー活動の思想、信条を簡明に言いあらわした言葉としてロータリーの公式標語である「超我の奉仕」および「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」がある。会員は自己研鑽を自覚し、クラブ活動の第一義である奉仕理論を学び、クラブでは「奉仕の理念」をもって行動することが求められ、修練で高められた人格をもって、日常の行動を律することが社会を豊かにする。これが「ロータリーの本質」だ。」というお話を頂戴しました。

深い感銘を受けたお話でありました。非常に難しい事ですが、今後精進し長い時間をかけて体得してまいりたいと思います。

## 幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 福塚一哉さんに入会グッズをお渡ししたいと思います。4月18日の観桜会で皆さまにご紹介・ご挨拶をしているのですが、その後リモート参加でしたのでお渡しする機会が今日になりました。
- 新入会員をご紹介申し上げます。八柳祐二さんです。よろしくお祈りします。
- 本日、次年度の合同委員会がパレスグランデールさんで18時から開催されます。昼、夜のタイトなスケジュールになりますが、よろしくお祈りをいたします。
- 本日の例会終了後、理事会を開催いたします。理事の皆さまはお残りください。
- 今月のロータリーレートは127円です。

## 新入会員あいさつ



八柳 祐二 さん

山形ゴルフ倶楽部 総支配人

ただいまご紹介いただきました八柳でございます。山形ゴルフ倶楽部に勤務しております。ゴルフ場にもたくさんのお客さまにお見えいただいておりますので、今後ともぜひよろしくお祈りいたします。

## ニコニコBOX

〈6月6日〉

**東海林健登会長**／石黒亮先生をお招きし、山形県のさくらんぼの未来の話聞けることにニコニコします。

**市村清勝会長エレクト**／八柳さんの入会を歓迎して八柳さんこれからよろしくお祈りします。

**佐藤章夫さん**／もう少しでゴールです  
東海林会長、本当にご苦勞様でした。あと1カ月、ホームストレッチです。

**新藤幸紀さん**／6月4日、妻の三回忌、母の七回忌の法事を済ませました。ようやく一段落です。

■例会：毎週月曜日 12:30～13:30 ■会場：山形グランドホテル TEL:641-2611

■事務局：山形市十日町 1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル 2F TEL:632-7777 FAX:624-5200



### さくらんぼの大きな夢

石黒 亮 氏

山形県農業総合研究センター  
園芸農業研究所 所長

皆さん、こんにちは。県農業総合研究センター園芸農業研究所、所長の石黒でございます。所長2年目でございます。いろいろなプロモーション活動に駆り出されておりまして、本日も皆さまの前でお話できますことを大変光栄に思っております。どうぞよろしくお願いたします。

今日は「山形さくらんぼの日」です。これは6という数字がさくらんぼの形に似ているということからきておりまして、一般社団法人日本記念日協会により認定・登録されたちゃんとした「さくらんぼの日」でございますので、こういった時に話題提供させていただけることを大変光栄に思っております。

試験研究機関、園芸農業研究所は23年になります。私の県職員生活は35年で、ほぼほぼ品種改良のほうに携わっておりまして、さくらんぼについては6品種、あと西洋ナシもバラード、メロウリッチ。りんごも数品種。メロンも作りまして、以上16品種に携わっています。ただ、紅さやかとか紅秀峰、そして今回のやまがた紅王。さくらんぼに一番携わった期間が長いということでございます。

私が品種改良を大学で勉強したいと思ったのは、やはり稲作地帯ですので、庄内の民間育種のお話の本があったんです。これ、阿部亀治という「亀ノ尾」という品種を作った方ですけども、この「品種改良というのは人間の意思によって方向づけられた生物の進化である」という、そういった言葉に大変感銘を受けました。

本日は「さくらんぼ山形県ってなに?」、「さくらんぼの生まれた場所」、あるいは「さくらんぼを中心とした品種開発の秘話」、そして「私が思い描くさくらんぼの大きな夢」ということでお話させていただきたいと思っております。

それで、やっぱり県内の人1,700人に「県外の人に勧めたい特産物、食べ物は何ですか?」と聞くと、お米よりさくらんぼのほうが多くなるんですね。こういったところからも、やっぱり「さくらんぼ県」というところがあるのではないのでしょうか。

山形県の農業、令和元年度、2,557億円の産出額がございまして、さくらんぼは362億円です。10%以上でございます。米に次いで多いです。これはただ農業生産だけにとどまらず、観光で大体年間50万人ほど来ます。この人たちの消費活動というのが、試算いたしますと800億円以上になるんだそうです。ですから、さくらんぼというのは1千億円産業だということで、こういったところからも「さくらんぼ県」というふうなことが分かるかと思っております。

加工品だとかお土産でいっぱいあります。そして地域づくりということで、駅の名前に「さくらんぼ」とついていたり、山形駅に来ますとこんなものが立っていて、知事が自ら宣伝しております。あと、

寒河江に行きますと、紅秀峰という品種にあやかって「紅秀峰橋」というのもございます。地域づくりにも一役買っている、やはり「さくらんぼ県」であると思っております。

さくらんぼの生まれたところ、これはコーカサス山脈南部、あるいはトルコ、スウェーデンからギリシャ、イタリア、スペイン、小アジアというところからヨーロッパにかけてなのですが、一番の大きなセンターがこのカスピ海と黒海のこの地域です。私も十数年前トルコに行ってまいりましたけれども、いろんなさくらんぼがございまして、やはりその原種というものにも触れて、「これが日本にやってくる間に紅王まで大きくなるんだな」というふうな感じを受けました。大体緯度でいきますと青森県から北海道のあたりなんですけれども、非常に温暖な地域で生まれたということでございます。

では「日本に初めてさくらんぼを導入した人は誰?」ということですけども、実は日本人ではないんですね。こちらのほう、1868年ですから明治元年です。プロシア人のラインホルト・ガルトネルという人が北海道の七飯町に初めてさくらんぼを導入しました。

また、時を同じくして北海道開拓使庁においてアメリカ人のホラシ・ケプロンという人がさくらんぼを導入しました。ですので、もう150年以上経っております。

じゃあ山形県はと申しますと、明治8年に東京の内務省勧業寮のほうから西洋果樹、西洋ナシ、りんご、ぶどう、こういったものと同時にさくらんぼの苗木を導入したと言われております。

そして山形県令の三島通庸という人がまた独自に明治11年、1878年に導入いたしまして、千歳園というのが、これは今の山形東高等学校です。そちらのほうにさくらんぼ98本を育てて、いろいろなものを、どれが適応するかというのを植えて試験してみたと言われております。

ですので、この1875年から数えますと147年です。もう3年後、山形県に導入されて150年ということで、県としても大々的に何かやりたいなというふうになっておりますので、ロータリークラブの皆さまもどうぞよろしくお願いたします。

山形県立農事試験場、今の山形中央高校付近にございましたけれども、そちらのほうでは明治41年から農商務省でさくらんぼの品種、海外の品種を、どれが日本に合うか、山形県に合うかというふうなことで試験をしたと言われております。

では、世界にさくらんぼは何種類ぐらいあるのでしょうか。これは、1915年にヘドリックという方が書いた「チェ



リーズ オブ ニューヨーク』という本ですけれども、私、この索引を調べて数えてみました。そしたら2,510種類ございました。これは1915年の本ですから、それ以降いろんな品種がまた加わっていると思うので、もっともっと、3,000種類弱くらいあるんじゃないでしょうか。

それでは日本では、といことですが、日本では種苗法という法律があって、昨日その登録品種を数えてみました。そしたら66種類あるんですね。

あと、じゃあ山形県内で流通されているものということで、農林水産省の統計で品種の数を拾ってみました。そしたら29種類です。ただ、29種類といっても全然分からないものばかりで、メインはやはり10品種以内くらいなのがメインだということです。ただ、2,510種類もあるというんですからね、やはり世界にはいろいろなものがあるんだなと感じますね。

それで、品種改良を我々はどうやってやるの、ということですが、変わりものを見つけてくるというのがまず第一ですけれども、私たち試験研究機関では交配をやります。交配をやる時に、例えば母親には品質の良い佐藤錦、でも実が柔らかいから、そこの欠点を補うために父に実が硬く非常に実留まりの良い天香錦をかけてみようというふうにして生まれたのが紅秀峰です。こちらのほうも実がパリッと硬くて、非常に皆さま方に喜ばれている品種でございます。

私たちはさくらんぼの時期になると来る日も来る日もさくらんぼを食べます。こんなふうにしてズラッと並んでそれをどんどんどんどん食べます。1日に100個以上食べることもございます。昨日の新聞にも書いてございますが、私、一番食べた時で300個食べました。300個食べると口の中がおかしくなります。口の中が甘ざくなって、大変になるってしまいました。

それで私、さくらんぼの品種開発に携わりまして感じたことが、そちらの提言というところにも書かせていただいておりますが、やはり交配する時、その親を選ぶ時のひらめきですね、まず最初に。これから始まります。そして交配した苗を育てて、もう何千と、今まで6千くらいやっていますけれども、わずかに6くらいしか出てません。その中からエリートを選んでいく目、実践ですね。ひらめきから実践、そして品種開発と普及に必要なのは生みの親だけではございません。育ての親、むしろ育ての親のほうが大事なんじゃないか。やはり愛情ですね。愛情。そして私たちとしては「やまがた紅王のように絶対消費者にうけるんだ」「そういうものを作るんだ」という強い信念。ひらめき、実践、愛情、信念というものが大事だったんじゃないかなというふうにして私自身思っております。

佐藤錦も、佐藤栄助さんが作ったのを、苗木商の友人、岡田東作さんという人が育て上げて、佐藤錦という大きな品種になりました。それで先週の土曜日ですか、佐藤錦も初めて実を結んで100年になるということでイベントをやっております。100年間もこれだけ一線の品種というのは素晴らしいなと思います。私たちの目標は佐藤錦に追いつけ追い越せのつもりでしたが、まだ道半ばでございます。

山形県では「南陽」という品種がございますね。こちらの県立農業試験場置賜分場、そちらのほうで作ったものですが、昭和40年に設立されました園芸試験場に移管してからは品種改良を中断してたんです。山形県出身のイシヅカさんという方がおられました。イシヅカさんはそちらの国の試験場を辞められて山形県に来られて、当時、果樹部長をやっていたんです。この時にサトウイサオという

人が若手でいたんですけれども、毎日のようにケンカしたらしいです。さくらんぼの品種改良は必要なんだと、させろ、と。そしたらイシヅカさんは、「そんなすぐ出るもんじゃないから、やめたほうがいいよ」と。それでもこの人は食ってかかって「させろ」と言ってきたので、温厚なイシヅカさんがカチンときて「じゃあお前がやってる西洋ナシの畑の木をぶった切ってもやれるんだったらやってみろ」というふうに行ったんだそうです。そしたら本当にこの人切っちゃいましてね、そしてそこにさくらんぼを植え始めました。始まりの時っていうのはやはりこれだけ議論した、そういうことでございます。そして昭和53年に開始したというのがこの山形県の品種改良の始まりです。

そして先ほど言った紅秀峰というのが昭和54年に交配されまして、紅秀峰というのはこの佐藤錦と天香錦のかけあわせでできた種を蒔いて出てきたものが7個しかなかったんです。7個の中から出てきた1つです。相当奇跡というふうにしかり言いがたいなと思っております。

これが初めて実を結んだ昭和61年の時の記載です。最初はバツとかがついてたんですね。それでも何度か積み重ねて、当時の担当者のノグチさんという方ですけれども、この方が育て上げて、この中の1つが紅秀峰だったということですね。

そしてやはりこの育ての親、寒河江市の三泉の軽部さんがこのさくらんぼを見た瞬間、これはもう私がこのさくらんぼを作りこなせるようにならなければさくらんぼ農家としては一丁前にならない、そういった信念で、惚れ込んで、そして愛情をかけて作ってここまで広まってきた。

それで、紅秀峰は平成17年にオーストラリアに持ち出されたという事件がありました。この事件があったがゆえにこうやって新聞に載って、高級品種「紅秀峰」となってきたからどんどん増えまして、園芸学会のほうから功労賞を一昨年いただきましてここまで来たということでございます。紅王もここまでなればいいなと思っております。

ここからはやまがた紅王のお話をさせていただきますが、これは平成9年に交配、かけ合わせしています。私は平成8年までこの試験場のほうに在籍しております、この組み合わせを考えました。紅秀峰と、レーニア、紅さやかの子ども、これと交配してできたのがやまがた紅王なんですけれども、ここから県庁のほうに行っちゃって、ずっと中断して、平成15年に戻ってきて、これは平成16年に初めて実を結びました。そして平成29年に品種登録、出願公表です。大体20年以上かかっているということです。現在2万6,000本ほど山形県内に植栽されていて、120～130ヘクタールになっていると。山形県内限定です。ほかでは作っていません。

今年プレデビューということで6トンほど出るんですけども、そちらのほうは首都圏へのプロモーション活動に使われるということで、地元ではなかなか手に入りにくいのかなとは思っています。ただ、来年になりますと本格デビューということで20トンほどになりますので、少しは皆さま方、お買い求めになれるかなと思っておりますので、楽しみにしていただければと思います。

これが、その時、私が初めて評価した時のですけれども、やっぱり1発目から丸がついてるんですね。新聞にも書いてあったと思うんですけど、見た瞬間目にバツと飛び込んで、こんなに大きくてキラキラキラキラ輝いてた。とにかくきれいだなと思ったんですね。それで丸をつけさせていただいて、それが今につながってきてるんだなと、私たちの後輩なんかいろいろとつないでくれてここまで育

て上げたんだなということで、非常に皆さん愛情を持ってやってくれたなと、私はその中に信念を持ってやっていたことになろうかと思えます。

育ての親が大事だというお話をしましたけれども、じゃあ育ての親は誰だろうな。やはり2万6,000本買い求めていただいたさくらんぼ農家さんであり、あとはその間に入る流通卸業者さん、そして山形県の一般の消費者、すべての山形県民がこのやまがた紅王の育ての親になっていただければなと思います。そして佐藤錦、紅秀峰、それに次ぐ次の品種ということに育て上げていただければなと。

私はもうすぐリタイアしますので、そのあとみんなつないでいていただいて、木陰の中からでも小さく見て「ああ、うまく育ってるな」と。そしてコケたらパッと隠れて石を投げられないようにしたいなと思っているところですが、すべての山形県民の方々に育てていただきたいなと思っております。

それで、私の思い描くさくらんぼの大きな夢。まず1つ目ですけれども、やはり特徴あるさくらんぼをまだまだ作っていきなと思っています。そしてもっともっと大きいさくらんぼを作れないか。私のおなかのようにもっともっと大きいさくらんぼを作れないか。そして一番農家の人に求められるのが、佐藤錦より早く収穫できるとか、あるいは日持ちが良くて、さくらんぼって非常に日持ちが良くないですよ。なので日持ちが良い。日持ちが良いということは遠くまで売ることができる。輸出も可能だと。そういったものとか、あるいは佐藤錦はこんなにきれいに色出ませんので、色がいいさくらんぼ。こういったいろんな多様性。山形さくらんぼのバラエティの拡大。こういったものをまず目指していきたい。これが1つ目の夢です。

そしておいしさの追求です。やはり品種だけではなく卓越した技術をお持ちの生産者。「おいしゅうなれ。おいしゅうなれ。その気持ちがさくらんぼに乗り移る」。やはりそういった気持ち、これも私の夢でございます。

そして山形魂の検証。テンユウのほうにも書いておりましたが、やはり147年間さくらんぼを愛し、そして山形の顔に育ててきた先人、こういった方々に敬意を表して何かしたいなと。これからこういったことが未来に展開できるか。やはりこれからDX、デジタルトランスフォーメーションの時代でございます。私はアナログで、もうまったくついていけないのですが、この時代で若い人たちがこの山形魂、これをどうつないでいくか。150年、200年、300年とつないでいていただきたいなと思っております。

これ、フロントというところにも書いたのですが、最近DNAを読み込んでいろんな品種を作ろうとしているのですが、私はやっぱりまだまだおいしいものの追求というのが大事だと思っております。「年ふれば ゆめまぼろしと 実が結ぶ」と、先ほどの先生の句をパクらせていただいております。

去年ノーベル化学賞がゲノム編集の研究者に授与されました。これということかということ、ある1つの遺伝子のところをハサミで切っちゃうんですね。これはサバの攻撃性を司る遺伝子を切っちゃって、おとなしいサバにすると。そして養殖とかなんかで傷つかないようにするとか。国内ではトマトにGABAという体にいい成分があります。高血圧とかなんかに効く。そういったものをものすごく成分を高める。そういったものがもうすでに販売されています。ただやはりハサミも間違っちゃったりなんかするとどうなるかわからないんですけど、これからの時代こういった技術も活用されるのではないかなと思っております。

雑駁な話、駆け足で大変恐縮でございました。山形西ロータリークラブの会員の皆さまの益々のご尽力で山形県発展のためによりしくお願いできればと思います。「まだ見ぬ実 夢の途中と 思うかな」。まだまだ夢の途中でございます。ご清聴どうもありがとうございました。



「やまがた紅王」の生育状況を確認する石黒亮所長（右）＝寒河江市・県農業総合研究センター園芸農業研究所

二日曜日掲載します（上村耕平）



## いざデビュー やまがた紅王

やまがた紅王は500日玉を超える大きな実が特徴だ。3L（直径28cm以上）から4L（同31cm）以上が標準サイズ。糖度は佐藤錦と同等ながら酸味が少なく、上品な甘さ

### ① 20年以上かけ開発

1997年に寒河江市の旧真園芸試験場（現県農業総合研究センター園芸農業研究所）で開発が始まった。佐藤錦が主役の本県では、出荷作業が短期間に集中し、慢性的な人手不足が課題となっている。出荷時期が異なる品種を投入し、労働の平準化と流通量の増加が求められていた。加えて山梨県や秋田県など他県の生産レベルも向上し、「サクランボ王国」として存在感を示すためにも新品種開発が必要だった。

当初は佐藤錦よりも収穫最盛期が早い、わせ種との開発を想定していた。紅さやかと実が硬いレインアの交雑種に、紅秀峰を交配。接ぎ木レクローンを作り、1、2年を育てた。2003年から開発に関わった園芸研究所の石黒亮所長（58）はブランド確立はクローン均一性が不可欠。なかなか安定せず、手探り状態。

最も苦労したのは意外にも試食だったという。石黒所長は「多い時で1日に300個は食べた。口の中がおかしくなりそうだった」と苦笑い。それだけに「デビューに立ち会ったことができて幸せだ」と充実感をにじませた。

（上村耕平）

県が20年以上かけて開発したサクランボの大玉新品種「やまがた紅王」が今月下旬にデビューする。サクランボ王国の新たな看板として期待を背負う赤い宝石。開発の経緯、生産者の動き、販売戦略などをシリーズで紹介する。

## 待望の大玉英知の結晶

1997年に寒河江市の旧真園芸試験場（現県農業総合研究センター園芸農業研究所）で開発が始まった。佐藤錦が主役の本県では、出荷作業が短期間に集中し、慢性的な人手不足が課題となっている。出荷時期が異なる品種を投入し、労働の平準化と流通量の増加が求められていた。加えて山梨県や秋田県など他県の生産レベルも向上し、「サクランボ王国」として存在感を示すためにも新品種開発が必要だった。

当初は佐藤錦よりも収穫最盛期が早い、わせ種との開発を想定していた。紅さやかと実が硬いレインアの交雑種に、紅秀峰を交配。接ぎ木レクローンを作り、1、2年を育てた。2003年から開発に関わった園芸研究所の石黒亮所長（58）はブランド確立はクローン均一性が不可欠。なかなか安定せず、手探り状態。

最も苦労したのは意外にも試食だったという。石黒所長は「多い時で1日に300個は食べた。口の中がおかしくなりそうだった」と苦笑い。それだけに「デビューに立ち会ったことができて幸せだ」と充実感をにじませた。

（上村耕平）

本日出席（6 / 6）	会員総数	出席会員数
	99名	65名（Zoom参加者10名含む）